

## 第1回 女性連合・私たちのひろば（オンライン）記録

第1回 5月14日（土）10：00～、15日（日）14：00～

<https://us02web.zoom.us/j/84739930412?pwd=Z1Z5MEYreEovdWNyM2JoYmVrOUlvQT09>

ミーティング ID: 847 3993 0412      パスコード: 697467

(内容案) 司会: 吉高      記録: 戸井田 (14日)、大竹 (15日)

- ・開会: あいさつ、祈り、録画について
- ・「検討チーム」目的・任期とメンバー紹介
- ・年間テーマ予定
- ・「私たちのひろば」の目的
- ・今回の「ひろば」のテーマと時間配分確認
- ・『世の光』『時代の転換点4月号、5月号』（補足説明: 米本4月、臼井5月）
- ・懇談の時: 質問、意見、コメント
- ・次回の「ひろば」予定について (7月9・10日)
- ・お願い: コメント・意見など FAX、HP から。女性会・教会に共有を。
- ・閉会: あいさつ、祈り (写真)

15日（日）14：00～15：30

参加者（途中より、途中まで含む、スタッフ含む）:      31名

Zoom 録画記録あり      書面記録: 大竹千賀

- ・録画についての承認のお願い

今日、5月15日は、「本土復帰」、別の言い方では「施政権返還」から50年の日とされている。「ひろば」を始める前に、短く沖縄に思いを寄せていきたいと思えます。

1972年5月15日、沖縄は「本土復帰」となりました。しかし、歴史的にも「琉球国」としての意識が高い沖縄において、「復帰」に関して複雑な感情や立ち方に分かれたが、沖縄の人びとは、平和憲法の下、基地の支配から自由になり、人権が守られ平和な国になることを未来に託しました。けれど、沖縄返還協定によって米軍基地の持続使用を認め、日米地位協定が締結され、50年経った今もなお、沖縄の人びとがどんなに反対しても、辺野古新基地建設が強行され、過酷な歴史を追わされ続けています。それは私たちが沖縄の人びとに負わせていることでもあります。平和憲法の下、米軍基地が縮小され、命と人権が守られますよう、沖縄の痛みを日々覚え、祈り続けていきたいと思えます。

- ・開会あいさつ 吉高路会長

昨日は36名、本日は現在26名の方が参加してくださっています。

2月に女性連合は、発足して50年を迎えます。主が導き励ましてくださったことを感謝します。

女性連合として時代の転換点にいます。女性連合の「財政」の課題は、大きな課題であり先延ばしできないテーマです。また、社会が大きく変わっていく中で、例えば性で括る会のあり方へも課題としてあがってきています。それは、女性連合として理念、名称、メンバー構成、また世界祈祷週間の担い方などにも繋がっており、一つ一つ確認、検証していかなければならないと思っています。

同時に、日本バプテスト連盟では4回目の機構改革が進められ、女性連合の大きく関わりのある「国外伝道」「伝道者養成」に関する協議にも女性連合から委員を出し協議を進めています。

それらのために、「これからの女性連合検討チーム」を立ち上げました。(21年度女性連合総会承認済)「ひろば」では、検討チームで検討されていることを全国の皆さんとこれからの女性連合のありかたを一緒に考えていきたいと思っています。

・祈り 本多依子副会長

・「検討チーム」目的・任期とメンバー紹介

検討チームでは歴史を振り返り、女性連合ハンドブックに記載されている理念・活動・規約・財政などについて確認し、「ひろば」で情報共有しつつ検討を進めていきます。

2023年度の福岡での女性連合総会に、あらたな理念や女性連合が取り組む「国外伝道」「後継者育成」の事など議案として提案していきたいと考えています。

【チーム編成】(任期：2022～2023年度)

- ・2021年度役員 加藤泉、岡田富美子、泉美智子、壺岐基子(会計監査)
- ・2022年度役員 本多依子、大竹千賀、廣島規子、戸井田敦子、吉高路
- ・前幹事：村上千代、前会長：踊純子 ・『世の光』委員：臼井愛子・(元)会計監査：山田洋子
- ・アドバイザー：奥田厚子、蛭川潤子(元会長・50周年誌)
- ・サポート：『世の光』編集委員：鮫島泰子、中條邦子

・年間協議テーマ予定

- 4月9日：世界伝道・祈祷週間 / 推進と連盟との協働について
- 5月28日：同上 / BWA世界祈祷日 使い方
- 6月18日：名称とメンバー構成
- 7月23日：総会・信徒大会について
- 8月20日：組織体制：役員・実行委員(地方連合)
- 9月17日：『世の光』
- 10月8日：小羊会・キャンプ
- 11月19日：献身者デー・奨学金
- 12月10日：沖縄(命どう宝)の日
- 1月21日：事務所体制：会計/会費/誌代・固定費(人件費)等
- 2月18日：同上
- 3月18日：予備

・「私たちのひろば」の目的

毎回の「ひろば」では、「検討チーム」で協議されているテーマを共有し、皆さんから広く意見をいただき、さらに検討を重ねていきたいと願っている。より多くの人が参加できるように二日間、同じテーマで定期的開催。毎回「土、日」で行います。

・今回の「ひろば」のテーマと時間配分確認

15:30には終了

・『世の光』『時代の転換点4月号、5月号』（補足説明：米本4月、臼井5月）

各号の「時代の転換点に立って」を読み、執筆者（幹事）より補足説明を行った。

（4月号）

私たちは時代の転換点に立っています。150冊減りました。

年度替わりには100冊以上のキャンセルがありました。

高齢化、例会ができていないという理由、財政が大きな課題になっていますが、徐々に下がりつつあります。

会費も下がり、祈祷週間献金も下がっています。

世の光の収入も下がっています。

総合的な部分が下がっているのがここに表れています。

（5月号）

このページをご覧になって参加してくださった方ありがとうございます。

決して今までの方々を否定する、ほかの方が間違っているというわけではないのですが、

これからどういうありかたがいいのかを考えていきたいと思います。

皆さんと一緒に言葉を交わしながら担っていきたいと思っています。

共有しながら考えていきたいと思っています。このページをご覧になって参加してくださった方ありがとうございます。

言葉をどんどん交わしていきたいと思っています。

希望の話ではないのですが、マイナスにならないほうがいいと思います。

役員の皆様もぜひ発言をお願いします。

・懇談の時：質問、意見、コメント

➤ 転入したのがイースター

バプテスト連盟のことがわかっていない状態。

世の光を見て参加しました。

女性であるならば、自動的にお金を払う会費でもらっていけばいいと思います。

最近転会したので、バプテスト連盟がわからない。

➤ 会費は会費、誌代は誌代

女性会の会員でも女性連合の会員ではない人もおられる

なかなか会費だけで運営が成り立たなくなっている。

女性連合 世界祈祷週間献金だけの教会もある。

女性連合の働きにつながっていかない

設立された当時から世界に目を向けてきた

女性連合の使命として世界バプテスト祈祷週間がある。

祈りと導きにより、女性たちが教会に集まりだした。

戦後に連盟が立ちあがり、連盟の宣教師派遣が始まった。

自主独立 強いリーダーシップのもとに、連盟にささげ続ける役割を担ってきた働き人を支える働き喜び、自負心をもって心から敬意と感謝をもっている。

連盟のメンバーとして、別団体として立っている。

決定機関の中からはずされているという現状がある。

- 契約、協定のようなのは結んでいるのか？

契約を結んでないから、連盟にやらないって言ったらやらなくていいということもできるのか？  
まるっきりささげなくてもよいのか？

- 契約を結んでいない。

婦人部としてやってきたことの流れ、歴史を引き継いでしてきている。

これまで祈祷週間献金から9割以上は捧げてきた。連盟が働き人を派遣している責任があるということ。

来年度の祈祷週間献金の用い方は、役員会。実行委員会等で協議し、女性連合総会で決議してきた。

- 今からでも自由に変えることができる。

これまでの女性たちの意志で、捧げてきた。しかし、決定機関からには入っていない。

この祈祷週間でたしかに一つになれ、捧げる喜び恵は感じてきた。

今は、ちょうど連盟も機構改革。

- 派遣の主体を女性連合が担うということも考えられるか？

- 主体となって実施することは可能

決定プロセスの中に女性連合の人がいない。

すぐには変えることはできないかもしれないが、変わる可能性はある。

女性たち自身が今までの歴史を振り返って、「方向転換」が必要なのかなと思う。

フルかかえで派遣をしていくことは今後は財政的に難しい。

国際宣教のその在り方も考えなくてはならない。

日本国内の諸教会における国際宣教をも視野に入れて考えていくことができる。

- ジェンダーマイノリティのかたがたを考えていくこと。

壮年との役割分担を分けてきた。

女性会解消しました。でも世の光はとってくださるし、かかわりを続けてくださる教会もあれば女性会やらないので、すべてやめますという教会もある。

女性が集まることの意義を考えていくとき。

日本もコロナになって、女性や子供たちがより苦しい立場にあることをも考えていきたいと思う。

- 主体がどこにあるか？

女性たちの方向転換が必要

連盟のこれからを考えるでも

日本の中の国際宣教にも力を入れていくことも考えられる

ジェンダーでくくる会を持つことはどうなのかともいわれている

働きごとに分けていってもよい、という声もある

女性が集まる意味を考えていく。

朗読ボランティアすることで世の光の良さを認識

奉仕をすることによって世の光を読み込んだ。

すばらしい。

例会プログラムだけを読むのでは、360円は高くつく。

私自身ありがたいと思っている。

女性連合のハンドブック世界祈祷週間に総会の決議によって定められる。とある。

女性連合が国外伝道的意思決定に、関与していると思っていた。

ハンドブックの表現では足りないか。

「婦人連合」に独立して変わるとき婦人連合は教会の婦人会として入るのではなく個人個人だった実行委員は地方連合にお願いしている

地方連合の女性会は、女性連合の「下部組織」ではない

一人一人がつながってくださる。

個々とのつながりが直接できるようになっているが、

お願いベースでありながら、一個人が判断して会費を払っていく。

世界伝道 ロティームーンを宣教師像の象徴としてきた

連盟から切り離されても、女性会は頼られる存在でいたかったのかもしれない。

- 女性会費は献金から会費を集めている。

来ている人は女性会です。

会費をだしている人は違う

出ている人のほうが少ないけど、会費を少しでもだしていきたい。

- 各会活動がないから、年度初めに「世の光」買いますか？会費払いますか？という打診。

うちは、世の光5冊会費9名

ジェンダーマイノリティの方もいる。排除も強制もしない。

世界祈祷週間献金から女性連合の働きのために取り分けることは今までしてこなかった

- 女性会の会費の集め方は週報ボックスに入れて呼びかけている

それぞれ優先順位があるので強制ではない。払ってもらえたらラッキーという形でやっている。

世界祈祷の目標に届かない。

- 3年前に役員をして、自分では連盟のことも女性連合のこともそんなに考えていなかったし、

世界祈祷週間は大切にしていたけど、世界に目を向けるいい機会になったなど。

役員になって組織とか、話を聞いて、改めて連盟と女性連合は別組織ということに気づく。

世界祈祷週間の持ち方。連盟に捧げてお任せする。

それでいいんじゃない？と思ってきたことが、それでいいのか？と問われることで

自分で考えて自分で決めることの大切さを思い始めた。

裏方はやるからほかの方に…と自分は言いがち。

気づいたことに気づきっぱなしではなく、みんなでいろいろ話あって、少しでもそういう風に生きていかなければと思いはじめた。

最初からあきらめるのではなく、自分では何もできないけど、初めからあきらめないで解放されていきたい。

いい機会だからジェンダーの問題でも、私たち1人1人が一歩ずつ踏み出す勇気をもっていきたいなと思っています。皆さんで、新しく変わっていけばいいなと思っています。

- ジェンダー、構造について平等を求めていくというのであれば、責任が伴ってくる。

今まで通り最終決定は連盟に任せるのか、プロセスに私たちが参加するのか、私たちが主体となっ

て進めていくのか。そのあたりのご意見を聞きたいと思います。

- 4月号の「転換点」に書いてありましたが、「世の光」で共有していくことは大事。
- 具体的な情報を分かち合っていくことが大事だと思う。  
こういう場をこれからも持ってほしい。情報をどんどん提供してほしい。
- 昨年の議案説明会に参加した。10月に何人か出て、いろいろなことを知らないで過ごしがちだったので、こういうような形でもいろんな方々の意見を共有していただき、分かち合っていければいいなと思います。  
いろいろなことがコロナの影響でできていない。  
どういう形で教会がやっているのかなどを聞きあっていきたい。

・閉会あいさつ 吉高路会長

感想やコメントをお寄せいただけたらと思います。

女性連合のホームページの「お問合せ」欄やFAXでお届けくださればと思います

次回の案内：7月9日（土）、10日（日）

教会で共有していただければいいと思います。

2021年度末現在加盟人数。

277教会 3569人

・祈り 廣島規子会計